

## 第2回箕面市総合計画審議会 会議録

1 日時 平成21年(2009年)11月27日(金曜日)午後6時30分から9時10分

2 場所 箕面市役所本館3階委員会室

3 出席委員 21名

会長	黒田 研二 氏	委員	藪口 隆 氏
委員	上田 春雄 氏	委員	山内 直人 氏
委員	神代 繁近 氏	委員	吉村 庄平 氏
委員	川上 加津子 氏	委員	中上 忠彦 氏
委員	神田 隆生 氏	委員	平野 クニ子 氏
委員	田代 初枝 氏	委員	植山 哲志 氏
委員	森岡 秀幸 氏	委員	川端 常樹 氏
委員	阿部 昌樹 氏	委員	島村 治規 氏
委員	河田 聡 氏	委員	須貝 昭子 氏
委員	窪 誠 氏	委員	藤井 慶一 氏
委員	澤木 昌典 氏		

(増田昇氏、山野則子氏、光井良治氏、山田富夫氏の各委員は欠席)

4 会議結果

案件(1) 第四次箕面市総合計画の取組状況について

資料1-1、1-2、1-3に基づき報告

案件(2) パブリックコメントの中間報告について

資料2-1、2-2、2-3に基づき報告

案件(3) 第五次箕面市総合計画基本構想について

審議結果 第1章第1節 一部修正の上、了承

第1章第2節～第3節 原案どおり了承

第2章 一部修正、一部保留

案件(4) その他

第3回開催日程 1月25日(月)午後6時30分から8時30分

第4回開催日程 2月23日(火)午後6時30分から8時30分

第5回開催日程 3月16日(火)午後6時30分から8時30分

## 5 会議の概要

### 1．案件（１） 第四次箕面市総合計画の取組状況について

会長： 第四次総合計画では、10年の計画期間を第1期から第3期までの3期に分けている。現在は第3期実施計画が進行中のため、課題等が残っているが、それをふまえた上で第五次総合計画を検討していきたい。

### 2．案件（２） パブリックコメントの中間報告について

会長： パブリックコメントと地域説明会で出された意見については、目を通した上で、これからの審議の参考にしていただきたい。

### 3．案件（３） 第五次箕面市総合計画基本構想について

会長： 前回問題になった、議会についてどう記述するかについて、引き続き審議することになっていたが、基本構想・基本計画の中身に関する議論を先行させたい。委員から文案を提出していただいているが、審議の最終段階で議論したい。また、成果指標の評価・検証についても策定委員会での検討後に審議する。

#### 【第1章第1節 「都市間競争」】

委員： 「厳しい都市間競争の時代を生き抜いていく」というよりむしろ、近隣都市との連携を中心に考える方が適切であり、持続可能という言葉で置き換えられる。

委員： 「自己決定・自己責任を基本とする」という表現にあるように、協働と同時に自己責任論が貫かれていて、都市間競争もその関わりで描かれていると感じるが、これまでの流れを継続するのではなく、自己責任論にたった視点は見直しが必要である。

委員： この基本構想では、危機の時代の総合計画であるという認識で都市経営ということを強調している。他の都市と協調していくのは大事なことだが、人口が減少すれば財政にも跳ね返るので、魅力を競い合う競争の局面にさらされていることも考える必要がある。自己決定・自己責任については、都市が経営に際して自己責任を求められているという意味で必要だと思う。

委員： 厳しい都市間競争の時代というのは事実としてあると思うので、「厳しい都市間競争の時代を生き抜き、持続可能な発展をしていくための新しい視点と発想を加えながら」という表現にしてはどうか。

委員： 総合計画が他の自治体や国に対する計画であれば、都市間競争や自己決定も理解できるが、自助・共助・公助、つまりみんなで助け合おうということを表に出した方が市民も参加しようと思う。逆に自己決定や自己責任や競争では市の機能をどんどん下げていく話になるので、削除した方がよい。

委員： 箕面市がどれくらい魅力ある市になるのかということは、市民にとって重要な関心事で、今の時代は都市間競争を意識せざるを得ない。都市の魅力がないまちには人はなかなか住まないと思うので、市民に対する市の姿勢として、このようなメッセージがあってもよい。

委員： 箕面市民会議での議論のポイントは、箕面市民が満足して住み続けたいまち、住んでみたいまちにするために、箕面の魅力をどうしていくかということである。これは結局、都市間競争ということになってくると理解している。

委員： 箕面は財政状況が非常に良いと思っている市民も多いが、事実はそうではなくなってきた。今後のまちづくりに一定の緊張感を持っていただくためにも、厳しい状況であるということは明記すべきである。

委員： 現実的に、子育てに一番良いまちはどこか、環境が良いまちはどこかという選択がされる時に、魅力あるまちづくりに関する競争は抜き差しならない問題で、こういう文言は重要である。

委員： 当然都市間競争はあるが、余りにも都市間競争が前面に出すぎていて、何が背景となっていて、どのような方向でやっていくのかということを含めて書く必要がある。

委員： 都市間競争を生き抜いていくことと、市が持続可能な発展をしていくために、様々な局面で周辺市や府との連携を図っていくということも、両方とも求められている。

会長： 「都市間競争」というキーワードについては、残す意見が多数である。事実として都市間競争があるという認識に立ち、グローバルな視点の言葉として「持続可能な発展」という言葉を入れて、「厳しい都市間競争の時代に持続可能な発展に向けた新しい視点と発想を加えながら」とする。「自己決定・自己責任を基本とする自立をめざす」という表現について

は、箕面市から町内会まで色々なレベルで自己決定・自己責任は必要であり、ガバナンスという意味合いで、「自立」という言葉を「自治」にすることも検討する。

#### 【第1章第1節 「三位一体改革による税収減」】

委員： 全国的には三位一体の改革で多くの自治体が税収増にあるが、箕面の場合は逆に国に持って行かれたというのが実態だと思うので、事実に基づいて正確に記入する必要がある。

委員： 「国の三位一体改革による」が「税収減」にかかるのではなく「財源不足への対応」にかかっているのか。税収減などに起因する恒久的な財源不足への対応なのか、国の三位一体改革によって税収減が起こったのか分かりにくい表現になっている。

委員： 中間所得者の税率の上昇と高額所得者の税率の低下という、他の多くの自治体では税収増になるような地方税法の改正により、箕面の場合は事実として市税収入が減っている。まさに三位一体改革で税収減になったというのはこの通りで、問題ない。

会長： 本市の場合は税収減になるというのは文脈として読み取れるので、このままとする。

#### 【第2章第1節】

委員： 都市の魅力というのは、一般の働く人たちにとって、便利で快適なまちであるかということである。ここでは、子どもとお年寄りと外国人労働者はクローズアップされているが、一番普通の納税者に対する箕面のあり方が書かれていない。いわゆるサラリーマンが、箕面に住みたいと思うような部分が欠落している気がする。

少子高齢化や景気低迷などマイナスのことに対してどうするかだけでなく、箕面のおかれた独自のな特徴を生かして、箕面が新しい何か、例えば文化、学術的なものや新産業などいろいろあると思うが、それらを生み出すという前向きなメッセージを入れていただきたい。

委員： 私の理解では、安心して暮らせる安全なまちというのが普通の市民にとって一番の魅力であって、箕面の売りになるところである。第2章第1節では、1.成熟社会の生活不安というところに関わってくる。

委員： 第4章 めざすまちの姿と基本方向の4「箕面らしさ」を生かすまちの4番目に新たな魅力創出によって観光・産業を活性化しますという項目があるので、ここで取り入れることにすればどうか。

副市長： 先ほどご意見のあった、働いている人たちの視点や箕面で起業する仕掛けなどについて、どういうことができるのか、どこに組み込むのがいいのか検討させていただきたい。

#### 【第2章第1節 3．地球温暖化問題の深刻化】

委員： 地域説明会の時に、地球温暖化問題というよりも地球環境問題とした方が広い意味になるという意見があった。温暖化にこだわりがあるならよいが、大きい方がよいと思う。

会長： タイトルを地球環境問題の深刻化に修正する。

#### 【第2章第1節 5．価値観の多様化と地域社会文化】

委員： 国際化、国際性の視点が弱い。外国人が暮らしやすいように広報の英語の部分を充実するなど、多文化共生という視点からの文言を書き加えてはどうか。前段は日本全体の話なので、第2段落「本市には、やさしさ・ぬくもり・思いやりの心で人と人とが交流し合い、一人ひとりが大切にされていると実感できる地域社会の実現が求められています。」という所を、「外国人にとっても住みやすい多文化共生の地域社会の実現」という表現にすれば自然に入ると思う。

会長： それでは、「一人ひとりが大切にされていると実感できる、外国人にとっても住みやすい多文化共生の地域社会の実現が求められています。」という表現に修正する。

#### 【第2章第1節 6．地方分権の進展と地域経営】

委員： 「地域の課題は地域で解決していくための仕組みづくりが求められています。」とあるが、現在も校区によってはいろいろな協議の場があって、行政と協働してまちづくりが進んでいるという実態がある。ここであえて書くと何か新しいことをする感じがするが、他の部分を読んでも新しいことが見あたらない。

委員： 具体的に言うと、地域によって課題があるところは、みんなで協議して解決してくださいという狙いではないか。市民の多様化した考え方を解決

していくために、それぞれの地域で魅力あるまちにしていてもらいたいという思いがある。

委員： 「経営」というのはタイトルに相応しいのか。経営というと財政的なニュアンスが濃くなるが、ここでは地域住民との協働、協調という意味合いであって、そうであれば「運営」の方が相応しいのではないか。

会長： ここでの地域は、自治の単位である地方公共団体の範囲の地域とも読めるし、その中の校区などもっと小さな地域とも読める。両方を含めた意味だとすると、「地域経営」は、自治体の経営と同じ意味合いになってくると理解したが、町内会などの自治も含んだ概念と言うこともできるかも知れない。

委員： 第1章第1節の「このような社会経済環境の変化を背景に、本市は、中長期的な視点に立ち、限られた行財政資源の中で効率的な行政運営を進めるとともに、市民一人ひとりがまちづくりの主役という意識を持って、地域の課題を解決する必要があります。」ということ全体を「地域経営」という表現を使って議論してきた。

委員： 第5章第2節「新たな地域経営によるまちづくりに関する方針」とあるように、地域経営というのはこの案のキーワードである。経営的発想に立って地域をマネジメントしていくというのが、この基本構想の一つの柱であって、経営という言葉を抜くと、特に第5章は大分書き換えなくてはならなくなる。

委員： 行財政に関しては全て運営になっているので、運営でよいと思う。経営と言うと、企業経営のように利益をあげるイメージがある。

地域と言う場合に、地域の住民を中心に考える場合と市の行政を考える場合の2つの意味があるという問題が指摘されたが、市は議会を通して組織としての決定をするので、自己決定・自己責任という言葉は個人にしかあり得ない。ということは、市民に対して自己責任をとりなさいというニュアンスでとられてしまう危険性が非常に高い。表現としては、「地域の課題は地域で解決していくための仕組みづくり」ではなく、「援助の仕組みづくりを求めたい」に換えるなど、市民生活のために援助するという方向の考え方にした方がいいと考える。

委員： 地方分権の流れの中で、国や府に頼るのではなく、地方自治体そのものが運営の責任を持つ必要が出てくる時代だということを言いたい。

会長： 経営や運営という言葉は全部に掛かってくるキーワードのようなので、全体を読んでもう一度考えた方がいいと思う。

## 【第2章第2節】

委員： 魅力アップのための重点課題のうち、子育てしやすいまち、みどりがあふれるまちは理解ができるが、の北大阪急行の話は難しい問題である。建設費・運転資金等で得られる箕面市の便益は何か。かやの中央近辺の交通が便利になることや、人口が増えることによるまちの賑わい、地価の上昇による税収の増加など良い面がいくつか伴うだろうが、投資あるいは運営経費に見合うものなのか。この10年間の計画で豊かな箕面のまちを潰されたら困るという思いもある。北大阪急行延伸の話を入れるのであれば、将来の箕面市の発展にどのように結びつくのか説明していただきたい。

総括監： 公共交通は、市の最も重要な施策と考えている。平成20・21年度に阪急電鉄、北大阪急行電鉄、近畿運輸局等関係機関の調査の結果、あくまで現時点でのシミュレーションだが、船場から高架にした場合、全体事業費は420億円となった。その3分の1は国からの補助金、さらに3分の1つまり約140億円が大阪府及び箕面市が負担する額となる。仮に140億円を大阪府と箕面市で折半すると箕面市は70億円の負担になるが、市では、現在約27億～28億円を基金に積み立てている。残りの3分の1は、運営主体による線路使用料によって採算が取れるというシミュレーションを行っており、結果は良と出ている。この鉄道延伸が実現すると、大阪の大動脈である地下鉄御堂筋線が延びてくることになり、今後の都市間競争を見据え、大きな魅力アップに繋がるものとして今回追加させていただいた。

副市長： 第四次総合計画ではリーディングプランを設定し、かやの中央の整備を進めてきたが、市民ニーズ度の高い公共交通機関の整備が最重要課題であると認識している。財政負担や事業スキーム等の問題はあるが、北大阪急行の延伸が実現することによって都市骨格が仕上がって、箕面の魅力アップにも繋がっていくとして設定した。

委員： 市民意識調査によると、一番満足度が低く重要度が高いものは財政健全化で、公共交通機関の整備はその下である。また、問16の公共交通の整備を充実させるために必要なこととして北大阪急行の延伸と回答したのは23.4%しかいない。まちづくりと市民の要請は違うというふうにも感じる。北大阪急行を延伸した後、どのようにまちづくりを進めていくのか説明していただきたい。

総括監： 2カ年の調査の中で実施した市民アンケートでは60%の市民が鉄道延伸を望んでいる。残り40%の市民のうち半分の方は延伸について全く知らないという状況であったので、北大阪急行の延伸が箕面市にどれだけの効果をもたらすのか、魅力アップになるのかという情報を今後発信していかなければならない。公共交通という視点でみると、かやの中央にバスを集約することによって、市民の利便性は大幅に向上する。自家用車から公共交通へ転換することによって、環境への負荷も軽減する。また、止々呂美から箕面グリーンロードを通り、かやの中央で鉄道に乗り換えることも可能になる。さらに、将来新名神高速道路が整備された時に、新名神から降りてくる車をパークアンドライドで鉄道に乗り換えてもらうことによって、市内の交通渋滞を防ぎたいという思いもある。

委員： 北大阪急行の延伸が最重要施策であるならば、最新の計画概要などの資料を審議会に提出してもらわないと正確な議論ができない。

委員： 今の千里中央に向けての道の混雑や、夜はタクシーに乗らなければならないような状況は、働く人たちのことを考えれば、市の総合計画として交通の利便性を向上させる何らかの対策を立てるのが当然だと思う。それが北大阪急行かどうかは分からないし、財政的な問題も大切だが、箕面に住み続けたい、箕面から勤めに行きたいと思っている市民のことも考えていただきたい。

委員： まちづくりとして優先的に検討していこうということは理解できるが、まだ検討段階であるのに、整備することを前提に重要施策として位置付けられていることが理解できないという発言だと思う。

委員： 財源が成り立つ形でやるのが条件なのは当然だ。交通体制を整備するのは、市の大きな責任の一つだと思うので、財政的、手法的な面はしっかり議論されたいと思うが、交通機関を諦めてしまえば、通勤者は箕面から出て行ってしまう。

委員： 魅力アップのための重点課題の3項目は、策定委員会議の案に追加されたものだが、第4章の5つのまちの姿の中に含まれている。残った2項目が、この3項目に対して順位が低いのかは十分な議論をしていただきたい。市民会議では5項目を並列的に挙げたので、このように3項目入れると文脈が崩れてしまう。



委員： 審議会は市長の諮問機関なので、3つの項目が新たに加わったとしても、市の原案として何ら問題はない。北大阪急行の延伸に関しては、市議会の交通対策特別委員会の中でも議論をしている。箕面市の将来にとって、高齢化が進めば公共交通機関が重要になるし、環境面においても、二酸化炭素削減といった公益的なことも踏まえて、延伸は必要ではないかという議論があった。

会長： 第2章第2節 基本となる考え方の中に、新たに箕面の魅力アップのための重点課題として3つの項目をたてるのが後と重複するのでいかなものかという意見が出たが、市としては、箕面市の魅力アップという項目を基本的な考え方の中に入れることが第一にあって、その場合にどのような点が魅力アップに繋がるかということ、第4章の5つのまちの姿と重複してでもあげておこうという考え方である。魅力アップのための重点課題を入れることによってメリハリをつける、構想の重要なところを端的に示すという意味合いでの提案である。

委員： もともと箕面の魅力アップという項目はあって、細かい内容は後段で論じている。3つを出すとするなら、この一部ではなく、策定計画の目的の辺りへ入れた方がインパクトがあってよい。

委員： なぜこの3つなのかという一つの理解としては、第3章で「ひとが元気 まちが元気 やまが元気」という将来都市像が出てくるが、ひとが元気ということが の子育てしやすいまちに、まちが元気ということが 交通機関が便利なまちに、やまが元気ということが みどりがあふれるまちにつながっていく。「ひとが元気 まちが元気 やまが元気」なまちを作っていく上で、どこに重点を置くかということ、子育て、公共交通の整備、みどりあふれるということになるという意味で、うまく書きぶりが揃えられるならば、これでよい気がする。

委員： 北大阪急行を延伸することが議題になっているので、延長をすることのメリットは何かと聞いている。千里中央からかやの中央まで来られるということは大きなメリットだが、今千里中央へ通っている人たちは、相変わらずかやの中央へバスで通うことになるわけで、結局その違いだけということが多いのではないか。バス路線の結節点として東西を結ぶことになれば、公共交通の充実につながるので、延長が悪いと言っているわけではないが、そこで得られる便益が経費に見合うものかどうかのデータを見て納得したい。

委員： 経済的あるいは工法的に成り立つように、限られた予算の中で検討するのが大前提だが、始めから鉄道はいらないと放棄してもらっては困る。鉄道がないために道路に車があふれ、生活が快適でなくなっている。だから、子育てしやすい、みどりあふれるまちと交通の話はセットであって矛盾しているものではないと思う。

会長： 魅力アップのための重点課題3項目は載せる方向で考えておいて、北大阪急行の延伸に関しては、もう少し資料を出していただいた上で検討するというところでよろしいか。

副市長： 資料に関しては、事業スキーム、財政負担の問題、工法の問題など鋭意努力してやっているが、進行中のところもあり、審議会にお示しする時期は検討させていただきたい。

委員： ここでの議論は、形式としてなぜここに3項目をあげる必要があるのかという問題と、内容として北大阪急行をどうするかという話とは区別する必要がある。北大阪急行のことは第4章第3節にあるので、そこで具体的なことを議論することにして、ここでは形式面だけの議論をした方が、議事進行上能率的である。私は、 が ・ に比べて具体的なので、 の「北大阪急行をはじめとした」という部分を除けば、抽象度が3つ揃うので一番簡単だと思う。

委員： 大事な言葉をどんどん抜かして、当たり前のことだけが書いてあるような計画では意味がない。バランスを取るためなら 、 も明確にさせればよい。

委員： 魅力アップのための重点課題は全て後ろで詳しく文章化しているので、構想を最後まで議論した上で、ここへ戻って検討することはできないか。全部を通して見た時に初めて25人の委員全員が共通の意見を持てる。

委員： 重点テーマ、重点施策は重複して何回出てきてもよいと思う。

委員： と が抽象的過ぎるので、果たして重点になるのか確認してはどうか。

委員： 北大阪急行の延伸については、他の都市にはない箕面の魅力としてこれをしたいたいんだということを重点課題として書いてあるのは、はっきり書いてよいと思う。 で言うと、箕面のみどりと言えば山なみなど一番大事にしたいことをはっきり立てた方がよいと思う。

会長： では、固有名詞、会社の名称をやめ、「鉄道延伸をはじめとした都市交通基盤を整え、」という形でいかがか。

委員： 第4章の5つのまちの姿は全て並列で、この5つをめざしますということだったが、魅力アップのための重点課題に3項目出てくると、この3つだけをめざすように見えてしまう。5つのまちの姿とこの3項目の関係を分かるようにして欲しいということだと思う。

委員： 魅力アップのための重点課題の3項目と5つのまちの姿は、一対一に対応しているわけではない。例えば交通機関が便利なまちというのは、環境共生にもつながるし、安全・安心にもつながるなど、いろいろな対応関係がある。だから、先に3つを重点だと位置づけしたら2つだけ取り残されると考えるのは、非常に歪んだ読み方をあえてしているとしか思えない。

委員： 私も数の問題では決してないと思う。魅力アップということで挙げるならば、もっと箕面らしさを出すべきだと思う。例えば、 は、大抵の市に当てはまるような文面で、 だけが箕面らしさを読み取れる。修正するならば、箕面のことを言っているんだなというのが分かるように、 を のレベルに揃えるべきである。

委員： 子育てしやすいまちは確かにどこにでもあるフレーズだが、日本一子育てしやすいまちとすれば箕面市だなと分かる。みどりがあふれるまちは箕面の山なみという表現を入れることによって、3つが同じ文面になるように思う。

委員： 魅力アップのための重点課題に重複して出てくる件については、2回出てきたから悪いとは思わない。ここは総合計画を審議する場所なので、5年先、10年先、30年先を見た時に、このまちがどうなっているか、視野を広げて大きく見ていくべきだ。

会長： 箕面の魅力アップの中に具体的な重点課題を書き込むか否かについては、具体的に書き込むということにする。